再歩

～にぎわい再び～

㈲園川農機商会　代表　園川浩（そのかわひろし）さん

行政区：寺迫

寒さの残る2月の半ば、店舗の再建が着々と進む傍らで、農機具などの販売を行っている園川さんに話を伺いました。

園川農機商会は益城町で唯一農機具の小物などを販売している会社で、園川さんは創業者である父親から会社を譲り受けました。

小回りの利く営業で地元の農家からも大変信頼されていて、昼夜、休日を問わず、客からの電話が絶えないという日もしばしばありました。

そんな園川さんの会社にも、熊本地震の被害が及びます。

前震のとき、店舗（自宅兼用）はどうにか持ちこたえましたが、近所では家屋が倒壊し、中に人が閉じ込められていました。すると園川さんは、自身の商売道具を持って駆けつけ、救助を手伝いました。

翌日、店舗の片づけを済ませ、家族は車中で、自身は玄関で休息を取っていたところ、本震に見舞われました。

「大きな揺れを感じて飛び起き、転がるように自宅から出たところ、直後に自宅が倒壊してしまいました」と、九死に一生ともいえる経験を、園川さんは振り返ります。

本震により、店舗、そしていくつかあった倉庫も全て倒壊し、父親は、ショックのあまり、しばらく寝込んでしまったそうです。

8か月後にプレハブの仮店舗を設置し、業務を再開したものの、店舗の復旧についてはさまざまな理由から、すぐには決断できませんでした。

しかし、地元から本格的な営業再開を望む声も多く、また、資金面でもグループ補助による支援があることを知り、店舗の再建を決断しました。

「周囲の同級生は、会社などを退職してこれから第2の人生をという人がちらほらと出てきています。私も、もしも地震がなかったら、第2の人生をと考えていました。ただ、新店舗ができるので、もう少し頑張らんといかんですね」と笑いながら話してくれました。

そんな園川農機商会も今年で創業から60周年。震災による結果とはいえ、そのような節目の年に、新店舗ができることとなります。

そんな園川さんの今の悩みは、「新店舗ができるにあたって、セレモニーを考えていますが、いっぱいお客さんが来ると、車を停める場所がないこと」。地元に愛される園川さんならではのうれしい悩みです。

最後に町内で商業をするにあたって期待することを伺ったところ、「町に活気が欲しい」と答えました。特に東海大学農学部のキャンパスが町にやってくることは、園川さんにとっても大変期待が大きいようで、「若い人が益城町に来てくれることで、お店ができたりするかもしれないし、とても活気が出るんじゃないかと思う」と笑顔で続けました。また、「農業がもっと盛り上がるといいですね」とも言い、さまざまなアイデアについて話しました。

『農業がもっと盛り上がるといいですね』

多くの悩み、苦労を抱えながらも、再建まであと一歩の園川さん。3月にリニューアルオープンしますが、再び町の農業を支えていただきたいです。

3月オープンに向け再建中の店舗

産業振興課 商工観光係
☎ 286-3277